

令和2年11月29日

あかしあ台防災講演会

「災害から命と暮らしをみんなで守る」

～災害時に何が起こるかを想像して楽しく備える～

講師 兵庫県立大 馬場美智子教授

1. はじめに

阪神淡路大震災の起こった2011年から兵庫県立大で働き出し、防災の仕事に係るようになった。

一人住まいの若い頃、京都の新興住宅地に住んでいた。隣の人を思い出せない。今は、神戸のマンションに住んでいる。近くの人とつながりが出来ていて安心してフレンドリーに暮らせている。

防災に関しては、大きな災害に備えることも必要ですが、安全安心を感じる、近隣の人との関係性をつくるのが大切であると思う。

2. 三田市の災害リスク

自然災害、火災、交通事故、鉄道事故、新型コロナウイルス感染、ブラックアウト、水道管破裂、ガス爆発、テロ等が考えられる。

・自然災害 三田は、平均的なデータでみる限り他と比較してみると自然災害のリスクが低い。土砂災害、水害の心配が少しある程度。

あかしあ台地区は三田市の中でも更に低い。それなら大丈夫なのか。必ずしもそうとも言えないのでは。

3. 地震災害とその対策

まず、地震について考えてみる。公表されている震度分布図（30年以内に見舞われる地震動の大きさ）によると、三田市あかしあ台は「5弱」と想定されている。このレベルであると、通常は棚から物が落ちるとか、あわててけがをする程度と想定される。しかし、気を付けなければならないところがある。即ち、阪神淡路大震災の発生確率が0.02%であったことである。隣接する地域でもっと確立の高いところがあったにも係らず阪神淡路で起こった。確率が低くても発生確率が存在すればおこるということを肝に銘ずるべきである。三田の近く、有馬高槻断層帯で起こる地震発生確率は0.04%と言われている。阪神淡路大震災のような地震は起こらないとは言えない。

では、地震がおこった時どのようなことになるか、津波、液状化、土砂災害、建物倒壊、土木施設損壊が起こるとともにライフラインが大きな影響を受ける。生活への影響が大きなものとなる。

そのためには、知恵を絞って備えることが必要になる。①防災食など備蓄（最低3日、できるなら7日間）、②自宅・身の回りの危険予防（建物診断、家具の転倒防止など：L字金具が良い）、③火災予防（火のしまつ）、④インフラ停止対応（水、ガス、電気、通信）など。又、起こった時の避難ガイドの整備も重要である。④初期消火（消火器の使い方など）、⑤通電火災防止（避難するときにブレーカ落とすなど）。

このように発生確率は少ないものの大きな地震は広範囲に影響を及ぼす可能性があり、

万全の備えが必要なことは明らかである。

4. 大規模停電とその対策

次に、自然災害発生リスクが少ない地域であっても広範囲に影響を及ぼすという意味で無視できなくなっている「ブラックアウト（大規模停電）について考える。

大規模停電は、自然災害の際に生じるとともに地震・台風・豪雪などの自然災害でなくとも電気接触事故、誤動作、落雷、需要増加などで発生する可能性がある。現に大規模停電が最近多くなる傾向にある。

電気が停まると、自宅戸建では、照明が使えない、エアコンが使えない、冷蔵庫が使えない、調理機器が使えない、通信が使えない、マンションでは更に、エレベーターが止まる、水道が使えない、セキュリティドアやオートロックが使えないとかいったことが起こる。又、街では、信号機がつかない、街路灯がきえる、スーパーに商品が並ばないといったことなどが起こる。

大規模停電に対しては、地震時に備えるべきこととして挙げた、防災食など備蓄（最低3日、できるなら7日間）、「インフラ停止対応（水、ガス、電気、通信）」などと同様の対応が求められる。その他、自動車の対策（ガソリン満タンなど）、非常用電源（バッテリーなど）、非常用トイレなどを備えておくことが求められる。これらは、生きている間に1回は起こり得るレベルなどで喫緊の対応が必要と思われる。

5. 地域で取組まれている活動紹介

次に、地域で取組まれている防災活動を紹介する。

① 防災を考える会 磯子

- ・自治会役員班長に配備品を配布。消火器、トランシーバー、懐中電灯など。
- ・安否確認訓練
- ・不意打ち訓練 防災訓練日だけを決めておき、当日予告なしの指示を出し行動する訓練。
- ・近隣の顔の見える関係づくり訓練 日時を決めた一定の時間内（約30分）に近隣5軒へ挨拶回りする訓練

② マンション防災の取り組み

- ・マンションの安否確認 安否確認シート活用
- ・地域の見守り活動 安否確認電話リレー

③ 自主防災組織 加古川グリーンシティ防災会

（防災を生活に組み込んで「楽しく防災活動をやろう」）

- ・町内チャンピオンマップ 防災時に役立つ特技の登録制度
- ・防災井戸 普段は水が湧き出る公園⇔災害時は「飲料水」、「トイレ用水」、などの生活用水供給
- ・防災ゲーム「災害ハンター・ファースト」 万に備えクイズで楽しく防災を学ぶ
- ・サッカーワールドカップ観戦会 楽しいイベントを通して子どもたちを地域防災の担い手に
- ・挨拶運動 お互いを知るためのコミュニケーション

④ まもりんピック姫路

(楽しく防災訓練 助け合う心を育む)

- ・消防防災ゲームや競技を運動会形式で実施 担架作成・搬送ゲーム、防災障害物リレーゲームなど

6. まとめ

まずは、一人一人が地域の一員であることを自覚して地域の関係づくりに参画し、防災を日常に組み入れて防災も一緒(ついでに防災)の意識でもって楽しく防災に取り組むことが大切である。安全安心のまちづくりは一人一人の意識と参画から。

以上